



佐藤 幸一 議員

コロナ禍での経済的支援として 上下水道の基本料金を 減免する考えは

町長 支払いが困難な方には
支払猶予で対応する

町長 新型コロナウイルスの感染拡大で多種多様な方が生活に影響を受けており、国、道の支援策に加え、町独自として商業、福祉、教育などに対し、支援策を実施しているところである。

一般家庭の上下水道使用料は、1か月の使用水量10立方メートルまでが基本料金で、5立方メートル以下の場合基本料金が半額になり、使用量が少ない方の負担を軽減している。

新型コロナウイルス感染症の影響により使用料の支払いが困難な方には、

問 新型コロナウイルス感染症対策の支援策として、非課税世帯や高齢者独居世帯、ひとり親世帯に対して、上下水道の基本料金を減免することが効果的な生活支援の方法と考えるが、実施する考えはないか伺う。

支払猶予にも個別に応じることが、現在のところ相談はない。

上・下水道事業会計は使用料による経営が基本となっており、一般会計からの繰入金により経営を維持している状況である。

今後においても、現在の料金体系のもと、新型コロナウイルス感染症対策としては、使用料の支払猶予による対応としていく考えである。



山下 清美 議員

改めて、 道の駅設置の考えは

町長 特色ある道の駅の
調査・研究を進めていく



本町は国道38号線と274号線が交差しており、地理的にも恵まれている

問 道の駅について、昨年の6月定例会で町長は、「現時点では道の駅を設置する考えはない。清水公園や十勝千年の森など、集客の見込める施設での情報発信、物産の展示販売を充実させていきたい」と答弁した。担当課長は「町外の方が目的地として訪れる清水公園となるために、どのような整備ができるか検討し、基本構想をまとめる」と答弁した。しかし、今年3月の定例会で清水公園再整備計画は行われなくなった。現状を踏まえ、改めて、道の駅設置の考えを伺う。

町長 道の駅は、休憩機能、情報発信機能、地域の連携機能の3つの要素を持ち、地域振興への効果が期待される。

本町は道央圏からの玄関口として地理的に恵まれており、自然・景観や

評判の高い食や特産品など、優れた観光資源が数多くある。

これまでは、情報発信の拠点として、十勝千年の森と清水公園内の飲食施設で観光案内や物産の展示販売に取り組んできた。

今後は、既存のドライブインやレストランなどの民間施設の活用も含めた物産販売や産直市場など、特色のある道の駅の在り方について調査・研究を進めていく。第6期総合計画の中にも盛り込んでいきたい。

問 8月30日付の十勝毎日新聞に、豪雨による浸水被害や土砂災害が想定される地域にある要配慮者利用施設における避難確保計画の作成状況が掲載された。

今年7月の九州豪雨で施設入所者が犠牲になった例もあり、各施設においても作成に向け準備を進めていると思うが、町として、計画未作成の3施設の避難支援と安全確保を進めていく

町長 本町で避難確保計画が必要な施設は7施設あり、そのうち4施設が作成済みで、3施設が未作成となっている。

町としては、保健福祉課と防災担当の総務課で常に情報共有を図り、災害時においてどのような支援が必要なのかを事前に保をどのように考えているか伺う。



避難確保計画を作成しているせせらぎ荘などの施設

に関係施設と確認しあうなど、災害時に備えた取り組みを今後も進める。

また、すべての施設で避難確保計画が作成されるよう支援を行っていく。

避難確保計画未作成の 施設への対応は

町長 情報共有し、災害時に備えた取り組みを進める